

カオダイ教におけるフォ・ロアン (Phò loan) と サイ・バン (Xây bàn)

——カオダイ教形成過程におけるサイ・バンを中心として——

高 津 茂*

は じ め に

カオダイ教が玉隍上帝を至高の神として祀る点においては宋代道教の影響を窺わせる¹⁾が、その玉隍上帝の神意を受け止める方法は必ずしも道教によるもののみではない。カオダイ教における神意を伺う方法は一般に「求機 (Cầu cơ)」と称するが、大きく以下の4つの方法がある。

- (1) 扶機 (Phò cơ) もしくは扶鸞 (Phò loan) と称されるもので、中国における扶乩に当たる。カオダイの扶機は、ゴ・ヴァン・チュウ (Ngô Văn Chiêu) に始まるとされる²⁾が、神意を伺う方法としては、メコンデルタにおける五支明道 (Ngũ Chi Minh Đạo)³⁾ 等の影響によると思われる。
- (2) サイ・バン (Xây bàn) と称される19世紀にアラン・カルデック⁴⁾により体系化されたフランスのスピリティズム (Spiritism) 中の叩音通信 (typtologie) がヴェトナムに伝わったもの。
- (3) シン・サム (Xin Xăm) と称され、日本の御神籤に当たり、竹のくじ札を振り出して運勢を占う方法。
- (4) チャップ・ブット (Cháp bút 執筆) と称され、童子が白紙の上に筆記用具の柄を置き、紙の上に字を書きだすために神聖なるものが降って筆を握る腕に入るのを待つ方法。

カオダイ教は1975年の解放以降、神意を伺うことは迷信としてヴェトナム政府の宗教委員会から公式には禁止されている。それゆえか近年これまでに降された聖書『聖言協選 (Thánh Ngôn Hiệp Tuyển)』⁵⁾ 以外の神意、なかでもこれまであまり明らかにされてこなかったサイ・

* たかつ しげる 星槎大学

バンによって降された膨大な神意を 1995 年『サイ・バンによる教えの歴史』⁶⁾として女性頭師フウオン・ヒイエウ (NỮ ĐẦU SƯ HUƠNG HIỆU) が編集しウェブ上で一次資料が公表されつつある。同書を参照して本小稿ではカオダイ教の形成過程を中心に上述した 4 つの神意を伺う方法の中でも (1) 扶機もしくは扶鸞と (2) サイ・バンを中心に、カオダイ教の中での意義を比較しつつ論ずるものとする。

I カオダイ教におけるフォ・ロアン (扶鸞 Phò loan) もしくはコ・ブット (Cơ Bút 機筆)

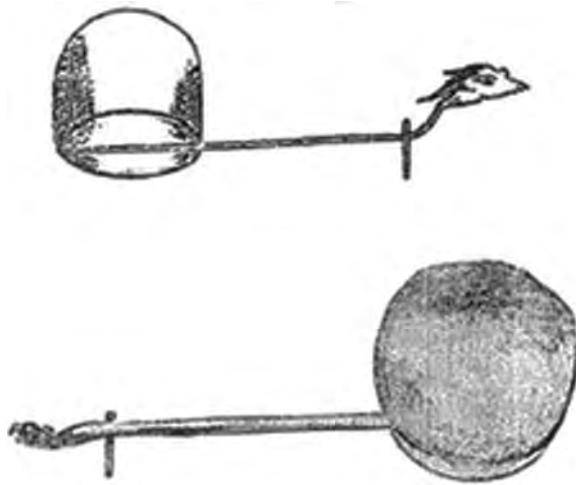
1. カオダイ教における扶機もしくは扶鸞

カオダイ教において神霊との通交を求めることを求機 (Cầu cơ) といい、そのための壇を壇機 (Đàn cơ) という。機 (cơ) の本来の意味は、各神霊と通交するための用具を指す。各神霊と通交するために用いる物である機とは、紙を貼り黄色の布でしっかりと包み込んだ竹や籐を編んで作った竹籠の開口部に、竿の頭部に鳳の頭の形状を彫刻した木製の長い竿や籐製の主軸の竿を差し込み、壇に神霊が降った際に、字を記すために用いるものである。この機を、神霊が降る貴い機を言うことから、玉機 (Ngọc cơ) と言う。この玉機のサイズが小さい場合には小玉機 (Tiểu Ngọc cơ) と称し、サイズが大きな場合には大玉機 (Đại Ngọc cơ) という。



至尊 (Đức Chí Tôn) や仏母 (Đức Phật Mẫu) を請う時には、大玉機を使わねばならない。諸々の神 (Thần), 聖 (Thánh), 仙 (Tiên), 仏 (Phật) を請うための機は、いわゆる玉機あるいは小玉機 (Tiểu Ngọc cơ) という。

カオダイ教におけるフォ・ロアン (Phò loan) とサイ・バン (Xây bàn) (高津)



上は鳳の頭の形を刻んだ大玉機 Đại Ngọc cơ chạm hình đầu chim loan.
下は龍の頭の形を刻んだ大玉機 Đại Ngọc cơ chạm hình đầu rồng.

それゆえ、この道具としての機を求めるということは、神聖なるものが降りてきて玉機を揺り動かし、字を記して教えを諭す文を新たに創り出すことを請い求めることを意味する。カオダイ教における扶機や扶鸞とはこの求機もしくは壇機のことである。

カオダイ教の「聖会」(Hội Thánh) 組織には大きく以下の3つの組織がある。

- ① バッ・クウアイ・ダイ (Bát Quái Đài 八卦台)；形而上の組織
- ② クウ・チュン・ダイ (Cửu Trùng Đài 九重台)；宗門の運営を掌る組織。
- ③ ヒェップ・ティエン・ダイ (Hiệp Thiên Đài 協天台)；至上の神の託宣をうかがう霊媒の集団。この求機もしくは壇機はカオダイ教の中でも特別な霊媒集団であるヒェップ・ティエン・ダイに属する者のみに許されており、誰でもが行うことのできるものではない。

特にヒェップ・ティエン・ダイは、ホ・ファップ (Hộ Pháp 護法) を頂点に、神々と人間との間の会同の場であり、地上における立法府の役割を担い、霊的な力を代表して司法権と支配権を持つ。神の託宣を握り、その託宣に適う宗律をつくり、神の託宣に則った運営が行われているかの司法権を握るがゆえに、協天台の長たる護法の力は強く、カオダイ教の歴史の中で、護法ファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) が絶大な力を得た。

2. 求機・壇機の概要

機を求めたい時には、ヒェップ・ティエン・ダイの二人の職色 (Chức sắc) が機を扶ける童子 (đồng tử) となり、機を求める壇 (Đàn cầu cơ) を立てねばならない。この機を求める壇を縮めて壇機 (Đàn cơ) といい、この壇機では、尊敬に値する道徳的な一人が壇主 (Chủ đàn) と

なり、二人の童子が機を扶ける。一人は筆に仕え、機が書き出した字を読むための読み手 (đọc giả) となり、もう一人が機が降した文を記述するための書記 (Điền ký) となり、複数の者が壇に仕える。

二人の童子が機を扶けに入ってから、壇主となった者はご利益があるように祈り、機の籠を両手に持って捧げて待つ。神聖なものが壇に降って来ると、玉機が動き出し、盤面に字の形を記し始める。これを読み手が声をあげて読み、書記が記録する。この記録が神の託宣であり、時に壇主の祈りに含まれる問いへの回答と解される。このようにして神意が伝えられる。

教えを開く数年前、壇機を立て、壇主と壇に仕えた各位はチョイ・コン (Trời Còn) と謂われる求機経 (Kinh Cầu cơ) を読まねばならなかった。このチョイ・コンの起源とは、丁巳 (1917) 年、ゴ・ヴァン・チュウが、母親の治療薬を請うために、カン・トォ (Cần Thơ) 省のカイ・ケェ (Cái Khế) でヒェップ・ミン (協明) 壇 (đàn Hiệp Minh) に仕えた。その時、ゴ・ヴァン・チュウ師は薬の処方と 10 句からなる詩を恩上たる神より授けられた。後にゴ・ヴァン・チュウは 4 句をつなぎ足して「求機経」とし、この詩の最初の 2 字を取って、この経詩の名前をチョイ・コンと謂った。

このエピソードは、カオダイ教における求機もしくは壇機という神意を伺う方法が 1917 年からゴ・ヴァン・チュウによって伝えられていることを物語っている⁷⁾。

3. 6 壇機普度 (Sáu Đàn cơ Phổ Độ)

1924~1927 年まで、「至尊は衆生を普度し、至尊や各神聖なるものが教えを諭す機を降し、門弟が教えに入門することを承認するために 6 か所の壇機を立てることを許された。」⁸⁾とされる。要は、7~10 年後にはゴ・ヴァン・チュウに降った神意を伺う扶鸞を行う壇が 6 か所に拡大したことを示すものである。その 6 か所とは、

- ① カウ・コ壇 (Đàn Cầu Kho) …ドアン・ヴァン・バン (Đoàn Văn Bán) の家に在り、ヴウオン・クウアン・キィ (Vương Quan Kỳ) が壇の証人となり、グウエン・チュン・ハウ (Nguyễn Trung Hậu) とチュオン・フウ・ドゥク (Trương Hữu Đức) が扶鸞を行った。
- ② チョ・ロン壇 (Đàn Chợ Lớn) …旧上議員レエ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung) の家に在り、主人とレエ・バァ・チャン (Lê Bá Trang) が交替で壇の証人となり、カオ・ホアイ・サン (Cao Hoài Sang) とカオ・クウイン・ズィウ (Cao Quỳnh Diêu) が扶鸞を行った。
- ③ タン・ディン壇 (Đàn Tân Định) …グウエン・ゴック・トォ (Nguyễn Ngọc Thơ) の家に在り、主人が壇の証人となり、ファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) とカオ・クウイン・クウ (Cao Quỳnh Cư) が扶鸞を行った。
- ④ トウ・ドゥク壇 (Đàn Thủ Đức) …ゴ・ヴァン・ディエウ (Ngô Văn Diêu) の家に在り、主人が壇の証人となり、フウイン・ヴァン・マイ (Huỳnh Văn Mai) とヴォ・ヴァン・グウ

エン (Vô Văn Nguyên) が扶鸞を行った。

- ⑤ タン・キム壇 (Đàn Tân Kim) …グウエン・ヴァン・ライ (Nguyễn Văn Lai) 委員の家に在り、官吏グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương) とレエ・ヴァン・リック (Lê Văn Lịch) が交替で壇の証人となり、カ・ミン・チュオン (Ca Minh Chương) とファム・ヴァン・トゥオイ (Phạm Văn Tươi) が扶鸞を行った。
- ⑥ ロク・ジャン壇 (Đàn Lộc Giang) …イエト・マ・ジョン (Yết Ma Giông) のフウオク・ロン寺 (chùa Phước Long) に在り、官吏マック・ヴァン・ギア (Mạc Văn Nghĩa) が壇の証人となり、チャン・ズイ・ギア (Trần Duy Nghĩa) とチュオン・ヴァン・チャン (Trương Văn Tráng) が扶鸞を行った。

通常のこの6壇機の他にも、「至尊は普度のための機を扶けるために必要な別の場所での大壇を立てるよう教えられた」とある⁹⁾ことから、壇があったものと思われる。

一回の壇機に参加する人はみな、当然のこととして、斎戒し、心が清浄であることが要求されねばならず、個人的なことや俗世間のことを話すのではなく、教えに関する心の傾向を話さねばならない。経典が下されているときには、隠れて無秩序に念じる必要は無いとされた。

4. テイエウ・ゴック・コ (Tiểu Ngọc cơ 小玉機) を使った降霊

「霊媒が神の啓示を受けるには、紙を張った竹籠に、長さ約40センチの竹製の柄を差し込んだ、「機筆 (Cơ Bút)」と呼ばれる一種の筆記具が用いられる。霊媒が竹籠を持ち、竹の柄の先に取り付けた木釘を溶いた白墨に浸し、机の上にのせる。それが依代となって、神意が自動筆記されていく。」¹⁰⁾これを側に控える第三者が声に出して読み上げたものを書記者が書き写し、神霊からのメッセージとする。この点では基本的に大玉機と同様である。降霊に携わる者の数や呼び出す霊によって大小が区別された。

ところが求機・壇機が人口に膾炙していくと悪用や誤用が目立つようになっていったようで、「衆生の中には、至尊の命令もなしに、機を求める壇を無理に立てようとして、厳かさもない不潔な多くの壇が、道徳的にも怪しい証人の下で、至尊の任命に依らないものが扶鸞を行い、壇に仕えることを渴望し、いつも仙仏を自称する真霊に入られ、衆生を邪道に、導く。」ということが神意によって示され、1927年6月1日に「至尊は機筆普度を停止する」よう諭した¹¹⁾。機筆を奨励しない理由には、神霊と通交するための用具という意味の機ではなく、その用具に降る神霊をも機と解するが、その機が ① テイエウ・コ (Tiên cơ 仙機)、② タ・コ (Tà cơ 邪機)、③ ニオン・コ (Nhơn cơ 仁機) であるのかを区別するのが難しいため、カオダイ教内部では各信徒がこの交霊方法を使用することを奨励しなくなった。もし各信徒が各々の機を理解したい時には聖書とされる『タイン・ゴン・ヒェップ・トゥエン (聖言協選 Thánh Ngôn Hiệp Tuyển)』¹²⁾を読むようにとしている。要は審神者の方法が確立されていなかったためであ

り、これ以降は求機や壇機は原則的には協天台に限定された。

5. コ・ブット (CƠ BÚT 機筆) の種類と条件について

機筆は機を請い(求機)筆を受け取る(執筆)儀礼であり、カオダイ教の一つの基礎を為すものであって、この宗教の出自を呈示したものであり、この宗教を解き伝える方法でもある。求機執筆とは、交霊方法であって、カオダイでは通交方法と称している。

カオダイの教えは、機筆によって創立し、機筆を通して真の教えを解き伝えている。機筆はダイ・ダオ・タム・キ・フォ・ド (Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ 大道三期普度) の根本的な基礎の一つであり、機筆を通して、教えの律法が施行される。その機筆には以下の3種がある¹³⁾。

1) コ・ブット・フォ・ド (CƠ BÚT PHỔ ĐỘ 機筆普度)

この機筆は、衆生が奉壇に参加して、カオダイの信徒になりたいと望んだ時、直接門弟を承認するために上帝が使用する。この機筆は最初の年には止めていて、その後教えの中での各職色の系統が比較的安定してから行われた。上帝は各職色にフォ・ド (Phổ Độ 普度) を交付する。

2) コ・ブット・フォン・タイン (CƠ BÚT PHONG THÁNH 機筆封聖)

この機筆は、二人の童子の中で(二人の童子は協天台の人間でなければならない)、法支部 (chi Pháp) あるいは道支部 (chi Đạo) に最初に一人の童子が属さなければならない時に使う。法と道の二支部の中にタップ・ニイ・トイ・クアン (Thập Nhị Thời Quân 十二時君)¹⁴⁾ の各位がみなまだ在世していない時には、機筆封聖も停止する。

3) コ・ブット・ザイ・ダオ (CƠ BÚT DẠY ĐẠO 教えを伝える機筆)

この機筆は、衆生が無形の神々を直接礼拝し学習するためのものであり、それゆえ禁じられていない。ザオ・フウ (Giáo Hữu 教友) の品級以上の各職色は、常に新たな機を求めねばならない。この機筆は禁じられていないが、自分の家や個人や集会における壇機は悉くみな固く秘密が保持されていなければならない、外部に伝えもれることがあってはならない。

とあることから、必ずしもすべての求機や壇機が協天台に独占されたのではなく、教友の品級以上の各職色には秘密保持の原則の下にコ・ブット・ザイ・ダオが認められていたことが知れる。ただ、機筆には次の二つの条件が付けられている。

- ① ティエン・コ (Thiên cơ 天機) を尋ねることはできない。
- ② 外部に伝え洩らすことはできない。

重要なことは、だれもが求機の意図を持っており、資格や条件が十分であるのか不十分であるのかは、自らを見直さなければならないということである。では、何を以って資格の有無を判断するのか。資格があると認めることのできる正しい3つの条件とは以下のごとくである。

- ① 偉大なる衆生をいたわる愛情を持って6ヶ月以上の長い斎戒をせねばならない。
- ② 各神々も多事多忙のため、各神々の貴重な時間を失わせてはならず、個人的な事柄を問う

カオダイ教におけるフォ・ロアン (Phò loan) とサイ・バン (Xây bàn) (高津)

ことなく、教えに関して尋ねなければならない。

- ③ 最小限3人の人が居らねばならない。2人が奉筆し、1人が壇を証する人である。壇を証する人は、道徳的で教えの行いの高い人物で無ければならない。もし可能であるなら、理想的には1回の壇機は最小7人である。この7という数は、タット・ティン (Thất Tinh 七星) の象徴であり、次のように配置する。

○チュン・ダン (chúng đàn 壇を証する人) 1人：(無形の各境界にまで通じる、十分強力な思想に基づく請願の言葉を発するため、落ち着いた精神と定まった心を持った者。)

○童子 2人：(霊媒)

○書記 1人：(各主な文字を読み取り文となすために正しく変換し、記録する者。)

○ホ・ダン (hộ đàn 護壇) 1人：(邪な怪しい気が侵入する前にのみならず壇を鎮めるために定まった心と神を鎮める術について通曉していなければならない。)

○ハウ・ダン (hầu đàn 壇に奉仕する人) 2人：(線香・蠟燭・茶・水・酒…等に気を配る。)¹⁵⁾

以上のようなフォ・ロアンによる機筆が、カオダイ教の神意を伺う基本的方法であり、この方法によりカオダイ教は創立され、教えが伝えられ、律法が施行されてきたとするのがゴォ・ヴァン・チュウを始祖と仰ぐ内教心伝 (Nội Giáo Tâm Truyền) のグループであり、後のタイニン派のグループでもある。

II. カオダイ教におけるサイ・バン (Xây bàn)

カオダイ教が教団として植民地政庁に認可される以前の時期、カオ・クウイン・クウ (Cao Quỳnh Cư), ファム・コン・タック (Phạm Công Tắc), カオ・ホアイ・サン (Cao Hoài Sang) らフランスの学校であるシャッスル・ローバーを出た3人は機筆を知らず、ただフランスからヴェトナムに伝わった神霊学 (Thần Linh Học) の各書に依ったサイ・バンを知るだけであった。

このサイ・バンによりこの3氏達は、1925年には瑤池宮の七娘 (Thất Nương Diêu Trì Cung) と接触することができ、その後七娘が初めてこの3氏達に神聖な方々を請うためには機筆を用いた方がサイ・バンよりも速くて便利であることを案内した。2015年は瑤池金母をカオダイ教が祀って90周年に当たり、カオダイ教タイニン派は台湾の道院をはじめ日本の大本も招待し、旧暦の8月15日に当たる9月27日にタイニンでの祀典が盛大に挙行された。また、タイニン派以外の各支派はハノイに集い、祀典を行った。

1. サイ・バン (Xây bàn) の定義と淵源

ヴェトナム語におけるサイ (Xây) とは「回転する、強く動く」という意味であり、バン (bàn) とは「テーブル、卓」を指す。要は、木製のテーブルが繰り返し揺れて (まっすぐな方向

に揺れてはまた揺れ戻す), テーブルの脚が床を叩くことによって, コツコツという音を発することであり, この叩音現象は生きとし生ける人間と亡霊との間に交わされる目に見えない世界での一つの交渉方法と解するのがカオダイ教における理解である。

その淵源は, 1848 年アメリカ合衆国ニューヨーク州ハイズヴィルに居住するドイツ系移民フォックス家で, 15 歳のマーガレットと 12 歳のケイトが, 壁の中でのコツコツ音とアルファベットとの対応関係に気付いたことから始まり, 6 年後の 1854 年頃にはアメリカの降霊術愛好者は 300 万人以上に上ったと言われる。この叩く音とアルファベットとの対応関係は, 1845 年ワシントン・ボルティモア間における S・F・B・モースによる世界最初の実用電信であったモールス信号の原理が影響したものと解される。この霊界との通交方法との解釈は瞬く間にヨーロッパに伝わり, 1853 年 9 月 6 日にヴィクトル・ユゴーをジャージー島にジラルダン夫人が訪ねた際に, 当時パリで一大センセーションを起こしていた降霊術が同夫人によって伝えられたことがオーギュスト・ヴァクリーの覚書の 1853 年 9 月 11 日 (日) より知られ, 1853 年冬にはフランスで降霊術の大流行が起こり, 1853 年秋から 1855 年 10 月までユゴーは降霊術の実験に明け暮れた¹⁶⁾。この文豪ヴィクトル・ユゴーの降霊術の実験がヴェトナムに神霊学として伝わり, 後にタイニン派の指導者となる 3 人によって試されたがゆえにヴィクトル・ユゴーはカオダイ教正殿の入り口正面に掲げられる絵の中に「神と人類愛 愛と正義」を論ずる人物として描かれており, 単なる著名な文豪としてのみではなく三聖の一人月心真人 (Đức Nguyệt Tâm Chơn Nhơn) であり, 白雲洞にてグウエン・ビン・キエム (阮秉謙 Nguyễn Bình Khiêm) の弟子となった人物として信仰を集めている。



2. カオダイ教におけるサイ・バン

カオダイ教におけるサイ・バンの理解とは, 目に見えない世界の神霊がテーブルに入る儀式に降ってくることを求めて, テーブルが揺れて揺れ戻し, テーブルの脚が床をコツコツと音を立てて叩き, 音を発することで, このコツコツという音を拠り所として掲示された字母に従って各字を規定することである。

すなわち, テーブルが 1 回コツンと音を立てたら A の字, 2 回コツン・コツンと音を立てたら Ā の字, 3 回コツン・コツン・コツンと音を立てたら Â の字, 4 回コツン・コツン・コ

ツン・コツンと音を立てたら B の字, 5 回コツン・コツン・コツン・コツンと音を立てたら C の字, 6 回コツン・コツン・コツン・コツン・コツン・コツンと音を立てたら D の字, 7 回コツン・コツン・コツン・コツン・コツン・コツンと音を立てたら Đ の字, といった具合にヴェトナム語の字母と叩音との対応関係が規定され, それによって神霊の託宣を知る方法である。

3. カオダイ教の歴史とサイバン

1924 年に上述したカオ・クウイン・クウ, ファム・コン・タック, カオ・ホアイ・サンらの 3 氏は, フランス神霊学会会員のポール・モネ (Paul Monet) 大尉と親しい間柄となった。3 氏は目に見えない各神霊と会話をして通交するために霊媒として神がかりになることをモネによって知っていた。このことは, 3 氏にとって, とても思ってもみない興味深いことで, 目に見えない世界の何かについてもっと知りたいという強い意志が 3 氏にはあった。ヴェトナムにおける神霊学研究界には多くの人がいたが, なかでもクウ氏は目に見えない各神霊と通交するのを 1 度目撃し, あらゆる方法で目に見えない世界と連絡することを希望していた。このことは, 時々氏の心を奪い操り, 志を同じくする人が幾人かいた。

乙丑年 6 月 5 日 (1925 年 7 月 25 日土曜, 夜), サイゴン, タイ・ビン市場近くのハン・ズア舗のカオ・ホアイ・サンの家でサイ・バンが開始された。

この土曜の午後, 事務所の仕事は終わりカオ・クウイン・クウとタックは, それぞれにサン氏の家に近いため, この世の世事の状態を久闊を叙してカオ・ホアイ・サンと一緒に語り合うために, サンの家に遊びに行った。夜更けまで一杯のお茶で話し合ってからカオ・クウイン・クウは神霊が催促しているらしい, もしくは超能力が心を動かしたため, 新たにその場にいない亡霊と接触するためのサイ・バンを行ってみることを思いついた。

タックとサンの二氏は互いに同じ気持ちを持って呼びかけに応えた。その時カオ・クウイン・ズィウと氏の二人の息子カオ・クウイン・ドックとグウエン・ヴァン・タン (養子, 号はフエ・チュオン) も人力車でサンの家へ来たばかりであった。各氏は寄り集まり, 円テーブルを担いで運び, サン氏の家の三又の場所に置いた。この円テーブルは 5 寸の径で 8 寸位の高さの中柱と三本脚を持ち, テーブルが揺れ・揺れ戻して脚が床に当たってコツコツと音を立てやすいように, 2~3 寸程中柱を高くしてあった。円い天板の上には, 3 本のお線香を差し入れる



小さな節があった。全員が円テーブルの周囲に座り、天板の上に両の掌を伏せて親指を互いに重ねて置き、この人の伏せた指は隣接する人の伏せた手の指に重ねて置く。すると、霊が降って静かに清らかに席に着いたのか、テーブルがその方向に傾げ始め、傾げた方向と反対側に誰かが押し戻しているように傾げる。幾人かが互いに質問をすると、誰一人押し合いへし合いしていることがないのに、亡霊がテーブルに入り込んだかのように、テーブルが傾げ始め床を軽くコツンコツンと音を立て始めた。それに引き続いて、テーブルが脚でコツンコツンと拍子をとって字を示し始める。テーブルが1回音を立てたら各氏はAと読み、2回音を立てたらĀと読み、3回音を立てたらÂ, ……ひたすらこのようにして、テーブルがいったん止まるとどの字かが分かる。その字をとってひたすら字となしたものをつなげて、意味を持った単語とする。この夜には多くの亡霊がテーブルに入り込み、コツコツと音を立ててフランス語で示したり、またハノイの学生はコツコツと音を立ててヴェトナム語で表した。

これがカオダイ教の歴史における最初のサイ・バンの時間であり、多くの亡霊がテーブルに入りたがり、互いに争って会話したがるのには理由があった。各氏を驚かせたのは、テーブルを回し始め、テーブルが規則正しくコツコツと音を立てる中でためらったりすると、字をなさず単語にもならないためにうんざりしてさらに続ける気がしない。ためらい過ぎた時にはクウ氏は、餓鬼か魔魂がテーブルに入り込んで荒らしているのかの決心がつかずに迷ってためらい過ぎたので、クウ氏はサイ・バンを一旦やめて、明晩また試すことを約束した¹⁷⁾。

1925年12月15日(乙丑の年、10月30日)、A. Ā. Âと称する霊が3人の下に降り、次のように諭された。

「1925年12月16日(この年の11月上旬)、三人は天に望んで教えを求めねばならない。目上の者の恩恵に浴すであろうゆえ、天が掌握する9つの神を祀るための線香などを載せる祭壇の台の間を清潔にして祈るよう目を配られよ…」¹⁸⁾

ここでいう3人とは、言うまでもなくカオ・クウイン・クウ、ファム・コン・タック、カオ・ホアイ・サンであり、A. Ā. Âと称する霊を仮称していたカオダイ上帝(Cao-Đài Thượng-Đế)に望んだことは、3人が邪な点は改め正しきに帰すよう導き賜うことであった。

翌朝、カオ・クウイン・クウは自宅の近くにあるティ氏 ông Tý (ở đường Bourdais) の大玉



Mình họa: các đảng tiên khai tập xây bàn

機 (Đai Ngọc Cơ) を借用しに行った。A. Æ. Å と称する霊の諭された言葉を思い出し、3人は小さなテーブルの置かれた石の敷き詰められた外に膝まずいて、9つの神を祀るための線香などを載せる祭壇にもたれて、祈った。

このようにしてサイ・バンを繰り返すうちに至上の神カオダイが降って、3氏にチョロンに居る植民地評議会議員であったレエ・ヴァン・チュンを訪ねてカオダイ教の創設をお願いするようにとの託宣が降り、3氏はその託宣に従い面識のなかったレエ・ヴァン・チュンに宗教法人としてのカオダイ教の創設を依頼し、レエ・ヴァン・チュンはこれを受け入れて同じカオダイの教えを信奉するゴォ・ヴァン・チュウを始祖と仰ぐ内教心伝グループをも取り込み、初代教宗としてカオダイ教が創設された。それゆえ、サイ・バンによる神託を得た3氏を始祖とするグループを外教公伝 (Ngoại Giáo Công Truyền) グループという。

4. 3氏の入信前の職業と入門後の地位

- ① カオ・クウイン・クウ (Cao Quỳnh Cư) (1888-1929) は、フランス植民地政庁下で鉄道・公共労働局の書記としてサイゴンで勤務していた。入門後には協天台の高僧としての地位を確立したが、早くにして他界した。
- ② ファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) (1890-1959) は、同じく植民地政庁の関税・専売局の書記としてサイゴンで勤務していた。入門後は護法の地位につき、レエ・ヴァン・チュン亡き後は第2代のタイニン派代表 (1934-56年) として、現在に及ぶタイニン派中興の基盤を創設し、絶大な影響力を行使した。
- ③ カオ・ホアイ・サン (Cao Hoài Sang) (1901-1971) も同じく植民地政庁で関税・専売局の書記としてサイゴンで勤務していた。入門後は協天台の高僧尚生としての地位にあり、ファム・コン・タックがプノンペンに退いた後には、第3代のタイニン派代表 (1956-71) に就任した。

この履歴は、カオダイ教タイニン派の指導部がその創成期からサイ・バンによる外教公伝グループの3人を中心に築かれたことを明確に物語ると言ってもよいものと思う。

お わ り に

カオ・クウイン・クウ、ファム・コン・タック、カオ・ホアイ・サンの3人、そしてカオ・クウイン・ズィウ (Cao Quỳnh Diêu) を加えても4人の行ったサイ・バン (Xây Bàn) は、ヴェトナムに伝わった西洋の神霊学の各書物を根拠にしたものであり、この時期のサイ・バンは、コツコツとテーブルがたたき方式 (cách bần gõ) によるものであった。ただ、サイ・バンは非常に煩瑣で、利便性から少しづつフォ・ロアンへと神意をうかがう方法が移ったと言えよう。

以上のことからカオダイ教の形成過程には神意の伺い方により大きく二つのグループがあったと言えよう。

一つは、内教心伝 (Nội Giáo Tâm Truyền) グループであり、ゴォ・ヴァン・チュウを始祖として大玉機 (Đại Ngọc Cơ) や小玉機 (Tiểu Ngọc Cơ) によるフォ・ロアンによる神託を得るグループを指し、後のカオダイ 11 派はこれに属し、その多くは解放勢力側に付いた。

二つは、外教公伝 (Ngoại Giáo Công Truyền) 派であり、サイ・バンによる神託を得ることに始まり、後 1929 年前後に利便性から神託を得る方法はフォ・ロアンへと変わるもののカオ・クウイン・クウ、ファム・コン・タック、カオ・ホアイ・サン の 3 人を中心とする派で、タイニン派がこれに当たる。同派は保守的・復古主義的な性格を持ちながらもフランスから弾圧されると親日に、日本が敗北すると親仏に、さらには親米へと外国勢力を利用しながら解放を迎えた。このことは、単に神意を伺う方法だけの問題ではなく、より複合的な要因によるものと思われる。後考を俟つ。

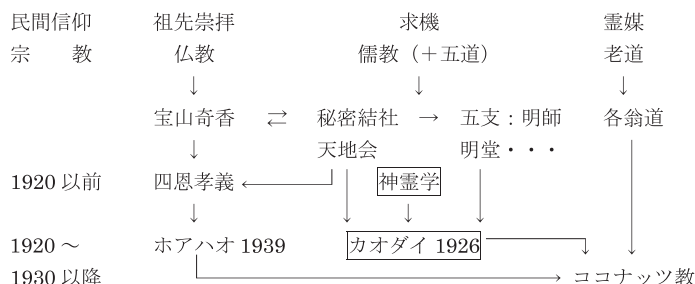
なお、カオダイ教におけるサイ・バンによる、もしくはサイ・バンの特性として以下の 3 点を指摘しておきたい。

- ① カオダイ教は、在地のヴェトナム南部の宗教環境や中国民間信仰の影響の中でのみ成立したのではない。逆に言えば、フランス式の教育を受け、植民地政庁の官吏となったような社会階層に位置する人たちが、すなわちプチブル階層の人たちが行った神霊学に影響を受けたサイ・バンという方法によってカオダイ教タイニン派の指導層が形成された¹⁹⁾。
- ② フランスの神霊学の影響はサイ・バンという神意をうかがう方法としての影響は認められたが、サイ・バンで降った霊やその神意の内容はヴェトナムの道教や中国民間信仰の影響がみられるものであった。
- ③ カオダイ教の一部で利用されたサイ・バンはアラン・カルデックやヴィクトル・ユーゴからの神霊学に依る点が多い。

また、この時期の社会・経済・政治的な背景の下での宗教環境について、グウエン・スウアン・ギア (Nguyễn Xuân Nghĩa) は、「1920 年代以降、各メシアニズム宗教運動は全く特別な背景のもとに出現した。カオダイ教が正式に成立した 1926 年は、民治伝説で広く知られたファン・チュウ・チン (Phan Châu Trinh) が帰国して 1 年後のことであった。グウエン・アン・ニン (Nguyễn An Ninh) グループの運動が出現したのもこの時期であり、この 1925 年はファン・ボイ・チャウ (Phan Bội Châu) が逮捕された年でもあり、ホー・チ・ミン (Hồ Chí Minh) がヴェトナム青年革命同志会 (Việt Nam Thanh niên Cách mạng Đồng chí hội) を立上げた年でもある。またカオダイ教の成立は、当時施行されたヴァレンヌ (Varenne) 全権による改良政策と分けて考えることはできない。逆に、第二次世界大戦が始まった 1939 年とその翌年の南圻蜂起 (khởi nghĩa Nam kỳ) (1940 年 11 月 23 日) が勃発した抗仏という背景のもとでホアハ

カオダイ教におけるフォ・ロアン (Phò loan) とサイ・バン (Xây bàn) (高津)

オ教 (Hòa Hảo) は出現した。』²⁰⁾と指摘して、カオダイ教の改良主義的性格を指摘し、カソリックの影響を認めているが、サイ・バンに代表されるフランス神霊学の影響については言及していない。それゆえ、外教公伝派の持つトランス・ナショナルな、あるいは外部勢力を利用し外部勢力に依存しつつ存続を図ろうとする性格は、サイ・バンを始めた3氏たちの出身社会階層の性格が固定されたことによるものとも思われる。



Tap chí Dân tộc học, số 2-1985 p. 58 に加筆

図 メコンデルタにおけるカオダイ教の宗教的位置とサイ・バン

注

- 1) 砂山稔「玉皇上帝と宋代道教」, 編集代表 野口鐵郎 講座 道教 第1巻『道教の神々と經典』平成11年, 雄山閣出版, 参照
- 2) Huệ Khải; Ngô Văn Chiêu Người Môn Đệ Cao Đài Đầu Tiên, Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2008, pp. 17-18
- 3) 高津 茂「ヴェトナム南部メコン・デルタにおける五支明道 (Ngũ Chi Minh Đạo) とカオダイ教」『共生科学研究 (星槎大学紀要)』8号, 2012
- 4) カオダイ教では、アラン・カルデックことイボリット・レオン・デニザール・リヴェイユを今でも篤く崇拝している。なお、アラン・カルデックについては、三浦清宏『近代スピリチュアリズムの歴史 心霊研究から超心理学へ』, 2008年, 講談社, 186-188頁参照。
- 5) 高津 茂「近世ヴェトナムの「万教合一論」」日本共生科学会『共生科学』Vol. 1, 2010, pp. 103-111
- 6) Đạo sử xây bàn, quyển một (phần 1) <http://vietngu.caodai.net/index.php/lch-s-caoi/164-os-xay-ban-quyn-mt-phn-1>
- 7) *Lịch Sử Quan Phủ Ngô Văn Chiêu(1878-1932). Người sáng lập Đạo Cao Đài*, In Lân Thứ TƯ, Nhà in Trần Minh Châu, Saigon, 1956, pp. 7-8
- 8) Cầu cơ-Đàn cơ, CAO ĐÀI TỬ ĐIỂN Q. 1, Soạn giả: Hiền Tài Nguyễn Văn Hồng, bút hiệu Đức Nguyên. p. 82
- 9) Cầu cơ-Đàn cơ, CAO ĐÀI TỬ ĐIỂN Q. 1, p. 82
- 10) KHẢO LUẬN XÂY BÀN & CƠ BÚT TRONG ĐẠO CAO ĐÀI, Ấn bản năm Ất Dậu-2005, Biên Soạn Hiền Tài Nguyễn Văn Hồng, pp. 46-47

- 11) Q. 1/87. Thành giáo dạy mỗi Đạo phải trải qua lắm nỗi gay go để gieo mỗi chánh truyền cho đoàn hậu tấn. (có dạy đến việc ngưng cơ bút). 01-06-1927 (âl. 02-05-Đinh Mão). THÁNH NGÔN HIỆP TUYỂN Quyển 1 & 2 Hội Thánh giữ bản quyền. Ấn bản năm Nhâm Tý (1972). Nhà in Trung Tâm Giáo Hóa Thiếu Nhi Thủ Đức. Đã huệu đình dựa theo ấn bản năm Kỷ Dậu (1969) & Canh Tuất (1970). pp. 169-170
- 12) カオダイ教には宗派により独自の聖書を持つ派が、現在3派ある。タイニン派の『タイン・ゴン・ヒエップ・トゥエン (聖言協選 Thánh Ngôn Hiệp Tuyển)』以外にも、チュウ・ミン派 (Phai Chiếu Minh) では『大乘真教 (Đại Thừa Chơn Giáo)』を聖書とし、カオダイ・カウ・コホ・タム・クワン聖会 (Hội Thánh Cao Đài Cầu Kho Tam Quan) は『三乘真教経 (Kinh Tam Thừa Chơn Giáo)』を聖書としている。それゆえ、支派により読むべき聖書は異なることがある。
- 13) Phan Văn Tân: *Lịch Sử Cọ Bút Đạo Cao Đài*, Hồn Quê Xuất Bản, Thiền Giang. 1967
- 14) 十二時君とは、護法 (HỘ-PHÁP) の権能の下におかれた4位 (接法 (Tiếp-Pháp) — 開法 (Khai-Pháp) — 憲法 (Hiển-Pháp) — 保法 (Bảo-Pháp)) と教えに関する上品 (Thượng-Phẩm) の権の下におかれた4位 (接道 (Tiếp-Đạo) — 開道 (Khai-Đạo) — 憲道 (Hiển-Đạo) — 保道 (Bảo-Đạo)) と上生 (Thượng-Sanh) の権能の下におかれた4位 (接世 (Tiếp-Thá) — 開世 (Khai-Thá) — 憲世 (Hiển-Thá) — 保世 (Bảo-Thá)) の12位の時君 (Thời-quân) を十二真君 (Thập Nhị Chơn Quân) という。その性格は以下を参照のこと。http://www-personal.usyd.edu.au/~cdao/booksv/DichLyCaoDaiEbooks/ebook-thapnhithoiquan/tntq-ch0100.htm
- 15) 高津茂 (2010), pp. 103-111
- 16) 稲垣直樹『ヴィクトル・ユゴーと降霊術』水声社, 1993年, 21-45頁, 91-111頁参照
- 17) KHẢO LUẬN XÂY BÀN & CƠ BÚT TRONG ĐẠO CAO ĐÀI, pp. 16-28
- 18) Ngày 16-12-1925 (âl. 01-11-Ất Sửu): Vọng Thiên Cầu Đạo. ĐẠO SỬ Quyển I: Đạo Sử Xây Bàn năm ất sửu (1925), Theo Ấn Bản Năm Ất Hợi (1995), Biên Soạn: nữ đầu sư HUỖNG HIẾU, Hội Thánh Giữ Bản Quyền, pp. 64-66
- 19) Nguyễn Xuân Nghĩa: *Vài Nhận Xét Về Các Phong Trào Tôn Giáo Cứu Thế ở Đồng Bằng Sông Cửu Long*, Tạp chí Dân tộc học, số 2, 1985, pp. 53-54 には、「カオダイ信成は、より複雑に区別される。まず初めに創立時の社会的成分はフランスのために仕事をする職員やサイゴンに居る大資産家やメコンデルタの地主であった。各童子やフォ・ロアンに仕える者の多くは小職員であった。最後に、信徒の大部分は各行政公署の人員であり、労働者、農民、学生であった。都市から創立されたにもかかわらず、1975年以前まではベン・チュ (Ben Tre), ヴィン・ロン (Vinh Long), バック・リュウ (Bac Lieu) のようなメコンデルタ農村部において力強く拡張した。」と記している。
- 20) Nguyễn Xuân Nghĩa (1985), pp. 52-53

要 旨

ヴェトナムの新宗教カオダイ教は、四種類の神意をうかがう法がある。(1) 扶機 (Phò cơ) もしくは扶鸞 (Phò loan) と称されるもので、中国における扶乩に当たる。カオダイの扶機は、ゴ・ヴァン・チュウ (Ngo Van Chieu) に始まるとされるが、神意を伺う方法としては、メコンデルタにおける五支明道 (Ngu Chi Minh Dao) 等の影響によると思われる。(2) ヴェトナム語でテーブルターニングを意味するサイ・バン (Xây bàn) で、これは19世紀にアラン・カルデックにより体系化されたフランスのスピリティズム (Spiritism) 中の叩音通信 (typtologie) がヴェトナムに伝わったものである。(3) シン・サム (Xin Xăm) は、日本の御神籤に当たり、竹のくじ札を振り出して運勢を占う方法である。(4) チャップ・ブット (Cháp bút 執筆) は、一種の自動筆記で、童子が白紙の上に筆記用具の柄を置き、神が腕に入って字を書き出すのを待つ方法である。本稿ではカオダイ教の形成過程を中心に上述した4つの神意を伺う方法の中でも(1)扶機もしくは扶鸞と(2)サイ・バンを中心に、カオダイ教の中での意義を比較する。ゴ・ヴァン・チュウを始祖として、フォ・ロアンによる神託を得る内教心伝 (Nội Giáo Tâm Truyền) グループと、サイ・バンによる神託に始まる外教公伝 (Ngoại Giáo Công Truyền) 派は政治的立場も異なる。

タイニン派は「外教公伝」として始まり、1925年から1927年ごろの最初の時期ファム・コン・タック Phạm Công Tắc, カオ・ホアイ・サン Cao Hoài Sang, カオ・クウイン・クウ Cao Quỳnh Cư, らは機筆を知らず、ただフランスからの神霊学 Thần Linh Học の各書に依るのみであった。ただ、サイ・バンによりこの3氏達は、1925年9月には瑶池宮の七娘等と接触することができ、その後七娘が初めてこの3氏達に九天玄女や瑶池金母といった神聖な方々の教えを請うていくためには機筆を用いた方がサイ・バンよりも速くて便利であることを案内した。そのため1927年から1928年頃からタイニン派でも機筆 (扶鸞) を用いるようになったと思われる。

キーワード: カオダイ教, フォ・ロアン, サイ・バン, アラン・カルデック, スピリチズム, Nội Giáo Tâm Truyền, Ngoại Giáo Công Truyền

Summary

Caodai, a Vietnamese new religious movement, has four ways of reading divine will. (1) *Phò cơ/Phò loan*, which corresponds to *Fuji* in China. It is said to have been first used by Ngo Van Chieu in 1917 under the influence of the Mekong Delta's *Ngu Chi Minh Dao*. (2) *Xây bàn*. "Table turning" in English, this is a way to communicate with dead spirits and was transmitted to Vietnam from France as a part of Allan Kardec's spiritism. (3) *Xin Xăm*, a divination method that uses bamboo sticks. (4) *Cháp bút*, a kind of automatic writing (psychography) by a small child whose arm is thought to be controlled by a divinity. In this paper, I compare the meanings of *Phò cơ/Phò loan* and *Xây bàn*, and conclude that the *Nội Giáo Tâm Truyền* group, which was founded by Ngô Văn Chiêu, and the *Ngoại Giáo Công Truyền* group differed in their political opinions.

The Tay Ninh sect began as "Ngoại Giáo Công Truyền," and during its initial period (around 1925–1927), Phạm Công Tắc, Cao Hoài Sang, Cao Quỳnh Cư, etc. did not know about *Phò cơ* [LD1], relying only on the books of Thần Linh Học from France. However, in September 1925, for the first time these three founders of the Tay Ninh sect met Thất Nương Diêu Trì Cung, Cửu Thiên Huyền Nữ, and Diêu Trì Kim Mẫu, who told them that *Phò cơ* is a considerably more convenient and faster method than *Xây bàn* for requesting teachings from holy people such as Diêu Trì Kim Mẫu. It appears that for this reason *Phò cơ* was adopted in Tay Ninh sect around 1927 or 1928.

Keywords: Caodai, *Phò loan*, *Xây bàn*, Allan Kardec, Spiritism, Nội Giáo Tâm Truyền, Ngoại Giáo Công Truyền